

# 到達点

1. エチオピアに於けるカイゼン・プロジェクトから多くの研究が生まれ出された（日本人だけでなくエチオピア人の研究も）
  - Ohno 2012; Abebe and Sonobe 2012; 大野 2013; Shimada 2015; 島田 2015; Abebe and Schaefer 2015; Mekonen 2018; Otsuka, Jin and Sonobe 2018; Page, Hosono and Shimada forthcoming
2. インパクト評価が日本のみならず海外でも。しかし経済学が中心で教育学などの実証研究はない。
  - Bruhn et al. 2010; McKenzie and Woodruff 2013.
  - Higuchi et al. forthcoming; Higuchi et al. 2015; Mano et al. 2014 and 2012; Shimada and Sonobe 2018; Page, Hosono and Shimada forthcoming
3. 産業政策論からのカイゼン研究（海外でも）
  - Lin and Chang 2009; Lemma 2016; Sonobe, Suzuki and Otsuka (2012); Norman and Stiglitz 2015 and 2017.

# セッションの構成

## (セッション1) 現在のカイゼン支援から

- JICAのカイゼン支援の「これまで」と「これから」  
児玉顕彦（JICA産業開発・公共政策部）
- 産業政策とカイゼン: エチオピアにおける実践と産業政策対話の経験から  
大野泉（政策研究大学院大学/JICA研究所）
- カイゼンと学習: 「質の高い成長」の視座から  
細野昭雄（JICA研究所）

## (セッション2) 教育および社会開発の視点から

- 非認知的能力が職能に及ぼす影響—エチオピア縫製業労働者に見るカイゼン教育の効果  
山田肖子（名古屋大学）
- 生活改善の視点から（生活改善とTQCの関係は、サクランボとチェリーか？）  
佐藤寛（アジア経済研究所）

## (セッション3) カイゼンの歴史的検討

- 生産性向上のアメリカ対日援助の戦略と労働組合、アジアへの展開 - 被援助国としての日本の経験 島田剛（明治大学）
- 生産性/品質向上支援体制の形成・展開過程: 日本・シンガポール・チュニジア  
柳原透（拓殖大学）